

各学校(園)長様
分校主任様
児童会・生徒会ご担当者様

公益財団法人 日本ユニセフ協会
ユニセフ学校募金委員会
会長 赤松良子

第66回ユニセフ学校募金趣意書

だれひとり、取り残さない。

平素よりユニセフ学校募金に、ご理解とご協力をたまわり心より御礼申し上げます。

第二次世界大戦の被害を受けた日本の子どもたちに、ユニセフ（国際連合児童基金）は、1949年からの15年間、粉ミルクや衣類の原料となる原綿、医薬品など、当時の金額で65億円もの支援をしました。その支援へのお礼の手紙に、子どもたちが添えた大切な10円玉、これが日本におけるユニセフ募金の始まりです。子どもたちのあたたかな思いから始まったユニセフ学校募金は、今年で第66回を数えます。

そして迎えた今年、この一年余りの間に、新型コロナウイルスが、国境の隔てを越えて世界中に広がりました。このウイルスは、日本を含めたどの国の子どもたちに対しても、等しく脅威となりました。しかし、「世界の学校の43%に、石けんと水を備えた手洗い設備がない」という事実が物語るように、その脅威からみずからの命と健康を守る状況は、その子どもの生まれた国や地域、育つ環境によって大きく違ってきます。

また、気候変動やそれにかかわる自然災害も、国境に関係なく、日本を含め世界中のすべての子どもたちの暮らしを脅かしています。さらに依然として多くの国が紛争を抱えています。新型コロナウイルス禍は、こうした厳しい状況下にある人びと、子どもたちの暮らしをさらに追い詰めています。

私たち自身も直面している同じ課題に、より困難な状況下で立ち向かう仲間たちに思いをはせるとき、子どもたちはどんなことを思い、考えるのでしょうか。今年度もユニセフ学校募金では、「すべての子どもに、を。」と、空欄を設け、皆さんに問いかけています。様々な課題に直面する中で、2015年に国連で採択された「SDGs（持続可能な開発目標）」を達成し、持続可能な社会を築くためには、一人ひとりが世界の課題を自分ごととしてとらえ、だれひとり取り残さない解決を目指して、できることから行動に移すことが求められています。

この問いかけが、子どもたちの主体的で対話的な学びを生み、空欄の中を一人ひとりの言葉で埋め、仲間とともにその実現に向けた募金活動を、みなさまの学校・園で展開していただくことを願っております。ユニセフ学校募金が、子どもたちを、持続可能な社会の創り手に育てる、大切な学びの一つになるよう、ご理解とご支援をお願い申し上げます。

を。' (For every child,). The poster features several circular images: two girls in school uniforms running happily, a boy using a handwashing station, a girl holding a book, and a medical professional examining a child. The slogan 'だれひとり、取り残さない。' (No one left behind) is repeated. At the bottom, it says '第66回 ユニセフ学校募金にご協力ください' (Please cooperate with the 66th UNICEF School Fundraising Campaign) and includes the UNICEF logo and contact information for the Japanese UNICEF Association."/>

だれひとり、取り残さない。

第66回 ユニセフ学校募金にご協力ください

公益財団法人 日本ユニセフ協会 TEL: 03-5789-2014 www.unicef.or.jp 郵便振立口座: 00130-5-31000 unicef